

偉大な愛の道

偉大な愛の道

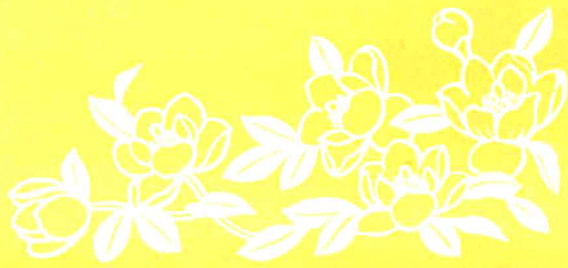
チョソン民主主義人民共和国・ピョンヤン

外国文出版社

1977



つねに人民とともにいる偉大な首領キム・イルソン主席



人民大衆のために忠実に奉仕し、大衆のなかにはいって大衆を教育し、改造して団結させ、大衆から力と知恵をくみとり、広範な大衆を動員して革命の任務を遂行することは、わが党の一貫した大衆路線であります。

キム・イルソン

わが国の津々浦々に伸びた無数の道、数千尺切羽の坑道や工場構内の道、広大無辺な田野の道や険しい山の小道、大小のそれらすべての道には、この国に起きた変革と創造の歴史を伝える栄光の事績が輝いており、人民に寄せる偉大な愛の不滅の足跡が刻まれています。

血まみれの抗日革命闘争を輝かしい勝利へと導き、祖国解放の春を抱いて凱旋した民族の太陽であり、伝説的英雄であるキム・イルソン将軍を迎えたチョソン人民は、たとえ幾日でも、将軍が体を休め疲れをいやすよう切に望んでいました。

しかし父なる首領は、抗日の戦塵にまみれた服装もそのまま、簡素な宿舎で兵士たちと寝食をともにしながら、一日の休みもなく活動し、現地指導の道を歩みまた歩みつづけました。

父によって革命の大志をつちかわれたマンガョンボンがのぞまれ、母の愛の子守唄がいまだに耳元から消え去らぬふるさとマンガョンデ、革命のいばら道を踏み分けた長い歳月、片時も忘れられなかったふるさとマンガョンデを目のまえにしながらも立寄らず、将軍はまず労働者たちを訪ねてカンソンへ向かいました。解放された祖国での父なる首領の現地指導はこうにして始まりました。

偉大な首領はこの日、カンソンの労働者たちの胸にチュチュの革命大業を担いゆく主人としての自覚を深く植えつけました。

カンソンへの歴史的な現地指導の道は、キム・チュク製鉄所構内の道へ、スプン発電所のダムへと伸びて行きました。

「土地は耕作する農民に！」のスローガンを示した偉大な首領は、農村に出向いて実にか月以上も農民と寝食をともにしながら革命的熱意を呼び起こし、彼らを土地革命の主人となるよう導きました。

土地改革法令を発布した父なる首領は、全国各地の農村を訪れ、時には一生みじめな下男暮らしをしてきた老人たちをおじいさんと呼び、その名を表札に書いて地主の家の大門にかけてやり、また時には、人里離れた山間僻地の丸太小屋を訪れ、ござに木枕で一夜を過しながら山を黄金山に変える新しい歴史を切開きました。

偉大な首領は、主体的革命力量を築くため、白色テロ分子らがトゥルマギの懷に拳銃をしのばせて路地に待伏せしていた殺伐な環境の中でも、ある日単身で大雪の夜道を踏んで青年活動家を訪れ、いつかはまた反動分子のうごめくシンイジュへ飛行機で飛び、大衆を啓発する火を吐くような演説をおこないました。

偉大な首領の歩んだ現地指導の道に、自主独立国家建設の火の手が激しく燃え上がり、反帝反封建民主主義革命の勝利の太鼓が高々と響き渡りました。

敬愛する首領キム・イルソン元帥にとって戦争の日々は、無数の緊急課題が山積する多忙きわまりない日々であり、作戦テーブルの傍で、また千里火線の路上で昼夜を送る形容しがたい大きな労苦の日々でありました。

アメリカ帝国主義の飛行機が随時襲いかかる危険な夜、最高司令官同志が万年長寿してこそ国があり、人民もあり得ると言って行手をさえぎる副官に、「前線では今も、同志たちが血を流して戦っているのに、われわれがここでためらってられようか」と自動車でもくらむような鉄橋の枕木を渡り、最前線の兵士たちを訪れた偉大な首領！

戦火の日々、偉大な首領が自ら最前方に出向いて戦闘を指揮したのは、1211高地の戦闘やテジョン解放作戦だけではありませんでした。

現地指導の道は、後方へもはるか遠くに伸びていきました。

偉大な首領は、前線指揮の多忙をきわめたある日、大きな河の辺りにそびえている岩山を調べ、「将来この山にトンネルを掘って、大工場を建設すべきです」と雄大な戦後復興建設の構想を練り、ある日はまた、ラクウォンの労働者を訪ねて彼らの党細胞会議を指導し、またウォンホワ村を訪れ農民といっしょに種まきをしながら彼らに勝利の信念を抱かせました。

燃える高地を越えて火線千里、けぶる砲煙をかきわけて後方万里を歩みつづけ、チョソン人民を栄光へと導いた偉大な首領の賢明な指導があつたがゆえに、わが国人民は世界戦争史に前例のない大勝利をおさめたのです。

祖国解放戦争の勝利を祝っていた 1953年 7月28

日、この日こそは、偉大な首領にとって戦後復興建設の荘厳な第一歩を踏み出す歴史的な日でした。

偉大な首領は戦争3年間の 疲れをいやそう ともせず、祖国解放戦争の勝利を 慶祝するピョンヤン市民大会の主席壇から下りたその足でカンナムれんが工場に向かいました。

砲声がやんで3日目、偉大な首領は雑草生い茂るホワンへ製鉄所を訪れて製鉄所復旧建設の方向を示し、「アメリカ人どもが破壊した小さな平炉の跡にはもつと大きな平炉をたて、わらぶき家の跡にはれんがづくりの家をたてて、復興建設でもアメリカ人どもにチョソン人の気概を見せてやらなければならない」と語って力と闘志と 信念を与えました。

偉大な首領は、壮大な復興建設闘争を力強く進める一方、都市や農村で搾取の根源を一掃するための社会主義革命を積極的に押し進めるため、現地指導の道をたゆみなく歩みつづけました。

平野地帯の農村からへんびな山村にいたるまで、祖国の北辺トゥマン江の岸から軍事分界線の農村にいたるまで、偉大な首領の現地指導の足跡が記されていないところはありません。

偉大な首領はこの地に社会主義強国を建設するため夜を日について現地指導の道を歩みつづけました。

昨日は飛行機で大規模の灌漑用貯水池堤防の位置を定め、今日は自動車で数百里を走って大冶金基地や大動力基地の敷地を定めるのです。時にはリョンフンが原の枯草の荒れ地やノンボが原の砂浜を踏み、時にはコワンゴクドンの谷あいぬかるみを歩んで、大ピナロン工場を建設し、総合農場の展望を切開いてくれました。

敬愛する首領の偉大な現地指導の道に社会主義工業国が建ち、その道に人民の楽園が築かれました。

父なる首領が歩みつづけた現地指導の道は、変革と創造の道であり、人民にたいするもつとも気高い愛に彩られた偉大な愛の道です。

父なる首領は、どこへ行っても仕事について聞く前に、働き手たちの健康から尋ね、職場を視察

する前に家庭や宿舎から見て回り、人民の生活をあたたかく見守るのです。

ある科学者が入院したことを知ると、カンウォン道の人民が父なる首領の万年長寿を祈って送ってきた貴重なサンサム(野生の朝鮮人参)を彼に送り、通りすがりに立寄ったピョンアン北道のある山村の農家が壁紙を張っていないのを見て、早速ピョンヤンからそれを送った父なるその愛！

アンジュ郡のある村道で出会った、入院中の弟の面会に行く一少年にご自身の車を出し、車が戻るまで雪の道で長い間待たれた父なる首領！

親が子供を差別しないように、父なる首領はすべての人びとにわけへだてのないあつい愛をそぐのです。

ある革命烈士の遺族を訪ねては、「これから、**私が君たちの父親だ**」と言って限りなく大きな愛をめぐらし、またアメリカ帝国主義者に夫を奪われた遺族に会つては、「**党は遺族を柱と信じている**」と大いなる信頼を示しました。

現地指導の際、解放前商工業を経営していた働き手がいまだに労働党に入党できないでいることを知り、「**私がこの同志の入党を推せんします**」と世の中でもつとも貴重な政治的生命を与え、夫がアメリカ帝国主義者にだまされて南チョソンに連行された婦人の手をしっかりととり、「**あなたは夫に会えるようになるでしょう**」と希望と信念を抱かせました。

父なる首領の現地指導の道に刻まれた偉大な愛は、チョソン人民の生活の中で、永遠に色あせぬ幸せの花を咲かせています。

わが国人民の幸福な生活の隅々にまで父なる首領の愛の及ばぬところはなく、チョソン人民が間断なく迎え送る無限の時間の中で、父なる首領の愛と関係なくして流れゆく時間は、一瞬とてありえません。

実に偉大な首領のたどった無数の現地指導の道は、この国に世紀的変革を創造してチュチェ・チョソンを輝かす偉大な指導の道であり、人民に限りない愛をめぐらし、自主的人間の真の生命を享受させる偉大な愛の道なのです。





三千里錦の山河に朝日が輝く。

日ましに隆盛発展するチョンリマ・チョソンに朝が訪れた。

マンスデの丘に輝く民族の太陽キム・イルソン主席の銅像は、朝日に映えて世にさん然たる光を放っている。

その光のもとに、チュチェ・チョソンの大飛躍の1日が始まる。



首領は人民とともにいる

1 夜空の星 まどろめど
 党中央の窓辺に 灯流れる
 ああ 人民の幸せのために
 この夜も明かしゆく われらの首領

2 朝露踏みて 工場たずね
 険しき嶺を越え 僻村におもむく
 ああ 慈しみの父なる首領
 いつも人民と ともにいる



永生不滅のチュチェ思想にもとづき、偉大な首領キム・イルソン主席のまわりに一つの心、一つの意志で固く団結したチョソン人民の統一団結は必勝不敗である

3 60年の歳月を 人民のため
 厳しき革命の 道ひとすじに
 ああ 首領の歩みし数万里
 栄えあるその道に 花ぞ咲く

ああ 歳月は遠く流れても
 偉大な首領に 忠誠つくさん

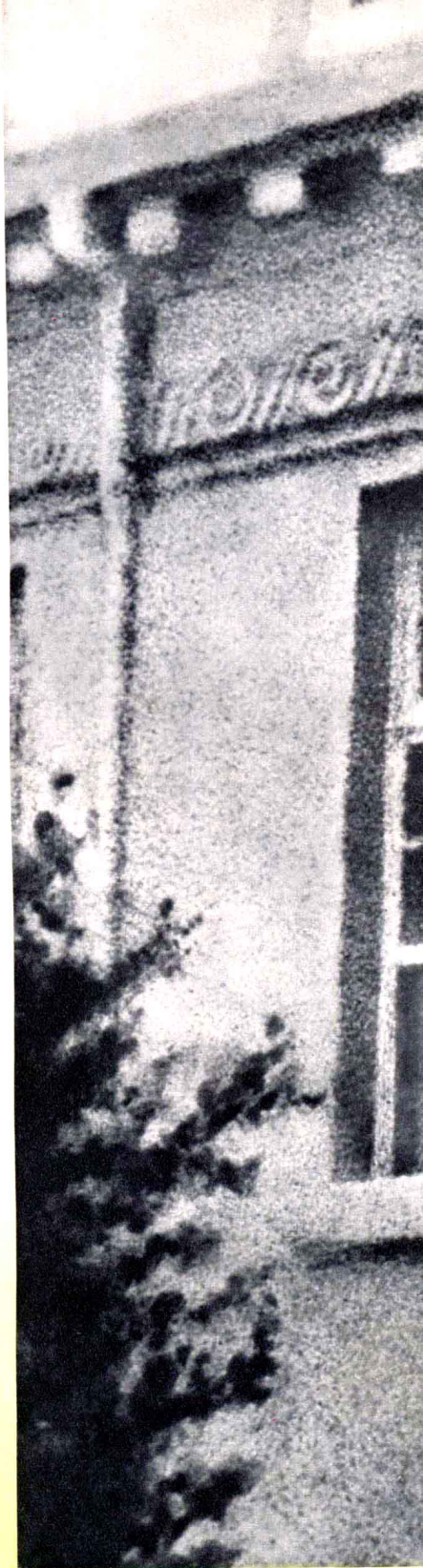
解放直後、わが党は北チョソンで民主改革を徹底的におこない、民主建設を促進することによって、将来、チョソン民族を完全に解放し、チョソンをゆたかで強力な自主独立国家につくりあげるための、強固な民主基地を北チョソンに創設することを基本的な政治路線と規定しました。

キム・イルソン



1945-1950

民主チョソン





設のために



偉大な愛の道は始まった

祖国が解放され幾月かたったある日、敬愛する首領キム・イルソン將軍は副官をともなってカンソン製鋼所に向向きました。

副官の胸は喜びに高鳴りました。それは、將軍が途中必ずマンガョンデに立寄るものと思ったからです。

マンガョンデが近づくにつれ、車の窓からは秋の取入れ前の黄金色の田畑や、青い松におおわれた山並がひと目に見わたされました。

「昔も今もふるさとの山河は変わらないね」

窓外から目を移さずにポツリと語る將軍の声は、数十年前を懐かしむかのようにひびきました。

車がマンガョンデに折れる分れ道にさしかかった時、將軍は車を止めさせました。

車から下りてしばらくマンガョンデの方を見つめていた將軍は、やがて副官に、「あそこがマンガョンデです。…いいところですよ。…私のかわりに寄って見ませんか。たぶん、気に入るでしょう」と言いました。

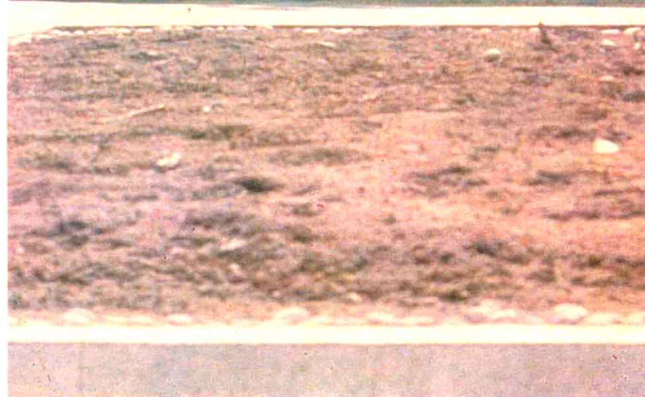
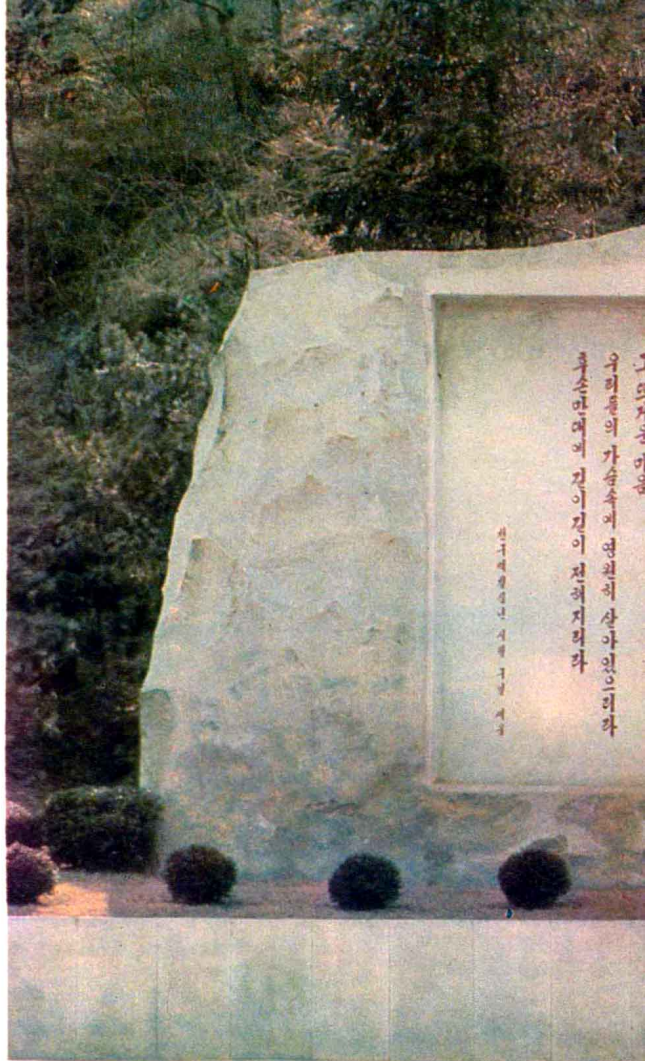
瞬間、副官は驚きと信じられない気持ちからただ將軍を見あげるばかりでした。

將軍は話をつづけました。

「20年ぶりに見るふるさとです。…行けば年寄りの祖父母がおられるでしょう。よろしく挨拶を伝えて下さい。そして国が解放されたのだから、数日後には私も帰ってくるだろうと言って下さい。また、いい世の中になるだろうということも申しあげて下さい。…では、明朝、ここで会いましょう」

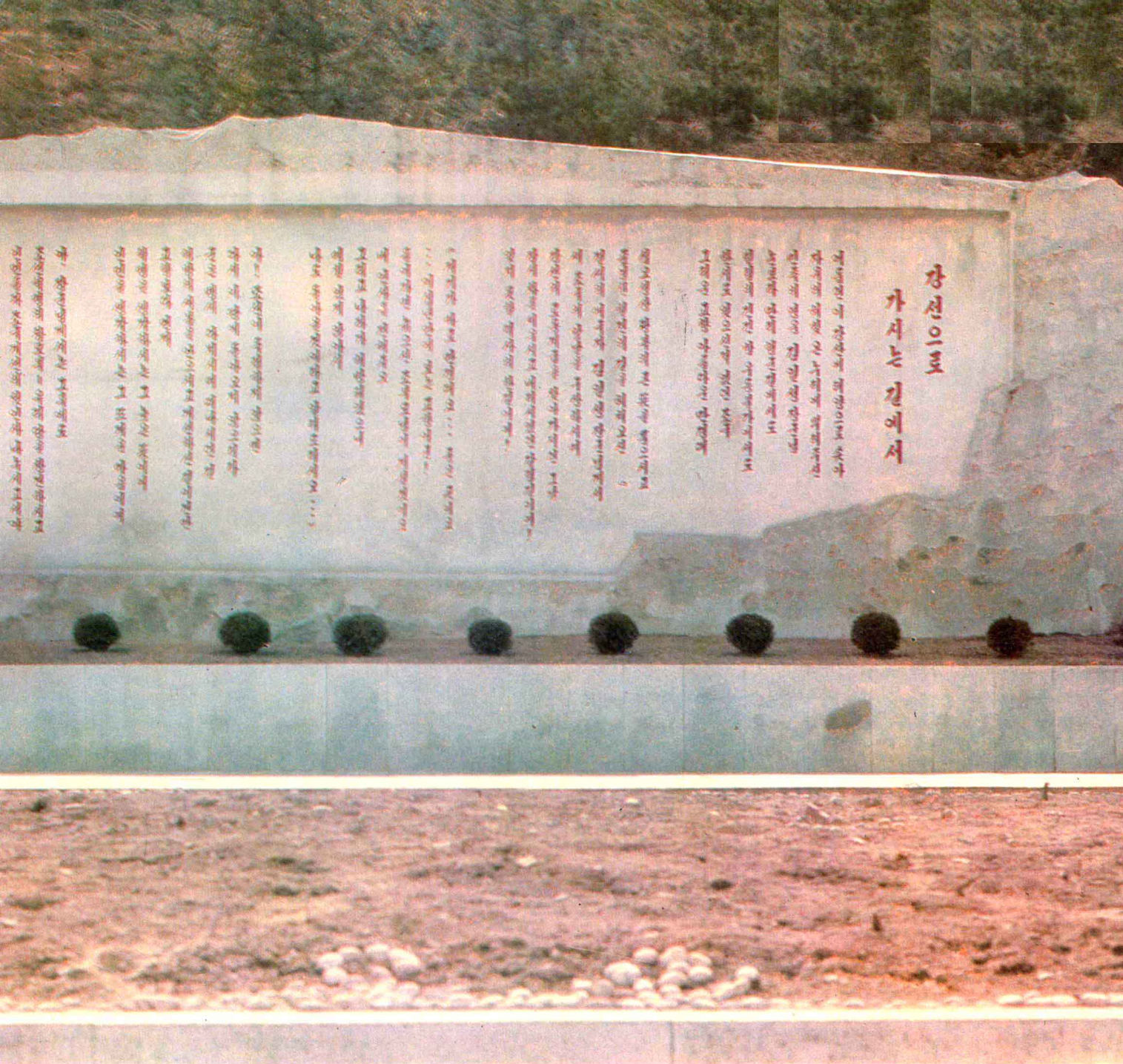
離れて20年にもなる懐かしいふるさと、ペクトッの吹雪や密林のなかでも、一時も忘れられなかったマンガョンデを目のあたりにする今、將軍とてどんなにか立寄りたかったことでしょう！

だが將軍は、鉄をつくるカンソンの労働者から先に会って国事を相談するため、ふるさとや親戚に寄せる旧懐



マンガョンデとカンソンの分れ道





偉大な首領キム・イルソン主席が、20年ぶりのふるさとマンギョンデを目の前にしながらも立寄らず、新しい祖国建設について労働者たちと話合うためカンソンに向かった不滅の物語を伝える事績碑

の情をじっと堪えるのでした。

しばらくの間、幼なじみのマンギョンデの峰々を見つめていた敬愛する首領キム・イルソン将軍は、ゆっくりと車に戻りました。

副官はどうしたらよいものか、戸惑うばかりでした。

将軍に言われた通り、一人で訪ねて行こうにも足が進みませんでした。

「ちょっとだけでもお寄りになってはどうでしょうか」

副官は勇気をふるって進言しました。

しばらく副官を見つめていた将軍は「いや…次の機会にしよう」

こう言い残して、カンソン製鋼所に向かいました。

車が見えなくなったあとも、副官は心を打たれてその場に長いこと立ちつくしていました。



カンソン製鋼所の労働者たちに革命の主人としての自覚を抱かせる敬愛する首領キム・イルソン主席

ご自身と祖国の運命を一つに見なす将軍は、あるさとを目の前にしながらも革命の大業を思い立寄らなかったのです。

副官は、ひたすら祖国と人民を思う将軍の気高い革命家的品性に驚嘆し、「偉大なお方だ!」と幾度も繰返しながら、遠のく車を見送りました。

彼は海よりも深く広く、山よりも高いその大志に学び、将軍に従って祖国と人民に限りなく忠実たらんことをいま一度かたく誓いました。

偉大な首領キム・イルソン将軍は、カンソンの労働者たちと、いや解放なったチョソンの労働者階級とこのようにして初対面をしたのです。